



川の博物館、通称かわはく(埼玉県大里郡寄居町)は、関東平野を流れる荒川の中流域にあります。博物館は「河川や水と人々のくらしとのかかわり」を、様々な体験学習を通して理解してもらうことを目的としています。その名の通り暴れ川であった荒川の氾濫と治水の歴史や、漁業・林業との関わり、川での祭りなどが様々な仕掛けで展示されており、一見堅苦しそうテーマを楽しく学べるよう工夫されていました。

特に目を引くのは、「鉄砲堰」の大型模型とその実演イベントです。鉄砲堰は川を利用した木材搬出方法のひとつで、運送馬車が導入されるまで使われていました。山間のV字谷に丸太で堰を造って大量の水をため、人為的に鉄砲水を起こして、源流域で伐採した数百本の材木を下流に押し流すというものです。館内には実際に水が流れる川や鉄砲堰が大型模型で再現され、館のスタッフが解説をしながら堰の水を一気に放水させる実演イベントが、迫力満点に行な

われていました。写真や映像だけではなく体験的に学ぶことで、水流の激しさを実感し、その仕事に携わる人々の危険や、自然を利用することの意味などを考えるきっかけとなります。時代によって関わり方は異なりますが、現在もどこかで自分の生活と関係する「川」を考える、よい機会となるのではないのでしょうか。

博物館の屋外には荒川に生息する魚の水槽や、流域で使われていた水車小屋、源流から東京湾まで173kmの全流域地形を173mで再現した大型模型が設置されています。また敷地内には水の科学的性質や治水・利水の学習ができるアスレチック施設もあり、一日かけて学び楽しむことのできる施設となっていました。

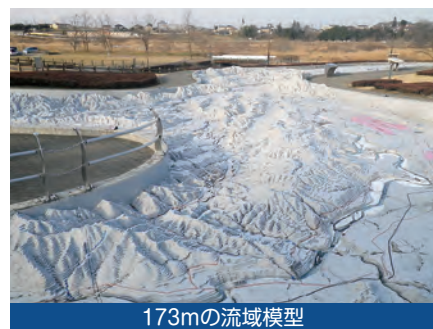
(独)土木研究所 自然共生研究センター
渡辺友美



博物館全景



鉄砲堰実演風景



173mの流域模型

Information & news

ARRC と読者を結ぶ広場

JICA 集団研修プログラムの一環として 野外調査の研修が行われました

プログラム「気候変動に対する順応的流域管理：洪水対策と生態系保全」の一環として、アフリカ各国から参加した10名を対象に研修を行いました。水際部の植生の有無によって、魚類の生息量にどのような違いが生じるかを実験河川において調査し、結果を踏まえた議論をする中で、水際における植物の働きやその重要性について考える事が出来たのではないのでしょうか。



皇太子殿下が ご視察されました

2012年10月14日、皇太子殿下が実験施設や実験河川での研究について、ご視察されました。多くのご下問もあり、施設や投網による魚類採捕の実演に興味深くご覧いただきましたご様子でした。「センターでのこれからの研究の発展を期待しております」とのお言葉を頂き、センター一同、気持ちを引き締まる機会となりました。



独立行政法人 土木研究所
自然共生研究センター
AQUA RESTORATION RESEARCH CENTER
Incorporated Administrative Agency Public Works Research Institute

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地
Tel 0586-89-6036 Fax 0586-89-6039 E-mail kyousei4@pwri.go.jp
http://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/index.htm

自然共生研究センターでは、

- 視察・見学のご案内
- 技術相談

を受け付けています。詳細はウェブでご確認ください。

自然共生研究センターの英訳は、Aqua Restoration Research Center 略してARRC。この略称の発音が期せずして Noah's ark(ノアの方舟)と同じになった。

